

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101843		
法人名	ケアあおもり てるてるぼうず		
事業所名	グループホームてるてるぼうず		
所在地	青森市高田字川瀬334-5		
自己評価作成日	令和1年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	令和1年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・行事等、地域の方々の協力体制が強く、交流を多く持つことができている。 ・職員一人ひとりが意識し、働きやすい環境を作るように努めている。また、家庭的な雰囲気の中で入居者様が楽しく、安心して生活ができるように日々努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域との繋がりを大切にしており、ホームで開催する納涼祭には家族はもちろん、地域住民も招待して、総勢200名を超える参加者がある地域のイベントとなっている。日頃から気軽に立ち寄ってもらえるように働きかけており、地域との交流に積極的に取り組んでいる。 職員は2ヶ月に1回、管理者と面談を行って、様々な意見や要望等を話す機会を設けており、出された意見等はホームの運営に反映させる仕組みとなっている。普段から意見を出せる環境を整えることで、職員が働きやすく、利用者が安心して過ごすことができるホームとなるように取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	週1回、月曜日の朝礼時、当日出勤職員で理念を唱和している。内容もきちんと理解している。また、職員の見える位置に理念を掲示し、理念に沿ったケアができるように心がけている。	具体的なホーム独自の理念を作成し、理念を玄関の見やすい場所に掲示し、週1回の朝礼の際には職員で唱和する等、理念の共有を図り、理解を深められるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内や小学校、児童館の行事へも積極的に参加している。ホーム納涼祭では近隣住民に呼びかけ、年々参加人数が増加している。町内婦人会の踊りやフラダンス、伝統の獅子踊り等の訪問があり、入居者様が楽しみにしている。また、地域の方がボランティアとして月1回、入居者様と関わりを持つために来所している。	ホームで開催する納涼祭には家族のほか、地域住民も招待し、婦人会のフラダンスや獅子踊りの団体による訪問もあり、利用者や家族にも喜ばれる地域のイベントとなっている。また、普段から利用者の友達が遊びに来る等、ホームでは日頃から気軽に立ち寄ってもらえるような働きかけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方が面会に来た時や町内にある美容室の方が来所した時等、関わり方について話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の第3月曜日に運営推進会議を開催している。ホームの行事や予定等を報告し、外出時や行事等の写真を観覧している。話題は限定せず、意見交換をしている。また、自己評価及び外部評価結果も報告している。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、地域包括支援センター職員や民生委員、婦人会長、町会長等が委員となっており、ホームの行事や研修、取り組み状況の報告のほか、委員からもホームの運営について様々な意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市等からの連絡には速やかに対応している。また、ホームからの情報も早急に伝えている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加し、年度初めには市担当課職員の参加がある。日頃から課題については解決できるよう、行政と連携を取っており、関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な内容を内部研修を通して、全職員がきちんと理解している。皆で過ごす時間を多く持つように心がけている。居室の開閉等、音には速やかに対応できるよう、全職員で心がけている。	マニュアル等も整備しているほか、3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催している。委員会の中で勉強会を開催し、全職員で知識を深めており、ホームでは身体拘束は行わないという方針で日々のケアを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学ぶ機会を設けている。虐待することがないように、職員の心が健康であるよう、ストレスを溜めないように指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通して、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の該当箇所を示しながら、口頭にて説明を行っている。自立支援に関する事項やそれに伴うリスクに関しても、十分な説明を行い、同意を得た上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時や電話連絡の際、不満や不安、要望はないか聞いている。要望はできる範囲で対応している。	日々のケアを通じ、利用者一人ひとりの顔色や表情、反応を見ながら、意見や不満等を察するように心がけ、なるべく利用者から意見を出してもらうように努めている。また、家族の面会の際には必ず声がけする等、意見を出しやすい環境づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員が1対1で面談する時間を設けている。面談以外でも、職員より意見等があった際は聞いている。月1回の管理者会議で話し合い、反映させている。	管理者は2ヶ月に1回、全職員と面談を行っており、職員は色々な意見を出し合えるようになっている。また、要望があればいつでも面談しており、職員の意見は反映される仕組みを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与は人事考課を取り入れ、職員個々の評価を反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修に参加する機会を設けている。職員個々に目標を設定しており、それに向かってスキルアップに努めている。管理者会議の際、全職員の状況を報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の場に参加して、情報交換を行っている。また、参考になる事についてはホーム内にて共有し合っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状況や入居者様の思いを受け止め、入居者様の訴えに対しては傾聴し、安心感を高めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に今までの生活状況や心身の状態の聞き取りを行い、問題となっている事や要望を明確にし、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを見極め、入居者様本位のサービスを受けられるように考えて、対応している。		
		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のできる事に着目し、職員と共に行うことで入居者様から学ぶ事もあり、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、通院への同行、状態の変化等、連絡や相談を行い、協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話等を通じて、関係を継続していただいている。	入居時のアセスメントや日々のコミュニケーションで得た情報を職員間で共有し、把握するように努めている。また、年賀状のやり取り等も手伝う等、これまで関わってきた人との交流を継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中心となるリビングで過ごすことが多く、入居者様同士の相性を客観的に見ている。孤立する入居者様がないように支え合っている。また、相性の良い入居者様同士も把握している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も電話相談にて対応したり、ご家族様が遊びに来ることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望やご家族様の思いの把握に努めている。その人に合った支援を心がけている。	利用者との日々のコミュニケーションの中で話を十分に聞く等、利用者の希望や意向を把握できるように努めている。また、家族の面会時等に利用者のことをよく知っている関係者からも情報を収集し、より良いケアに反映させるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	キーパーソンとなるご家族様からの情報や以前に利用していた施設、病院からの情報等を全職員で共有し、活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活リズムを全職員で把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様からの聞き取りやご家族様の意向、全体のカンファレンスで話し合ったことを反映させ、介護計画を作成している。	介護計画作成時には可能な限り利用者の意見を聞くように努め、職員会議に全職員が参加するため、その場でケース会議も開催し、全職員からの気づき等を話し合い、理念を再確認しながら介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況をチェックし、職員の関わりの様子や特変があった時の言動、行動を記録し、職員間で確実に申し送りを行い、共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の要望を実現させるため、買い物やドライブ、様々な外出等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事や小学校、児童館の行事等に参加している。月1回、本の読み聞かせボランティアの来所があるほか、地域の方がコミュニケーションを取るために来所しており、入居者様の楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医往診を活用し、突発的な受診にも対応している。入居者様やご家族様の要望により、他の医師による診察も対応している。	事前のアセスメントでこれまでの受療状況を確認しており、入居後の受診についても利用者や家族と話し合い、意思確認をしている。また、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように対応しており、通院はホームで対応し、希望があれば協力医療機関の往診を受けることができるようになっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診契約者や往診担当看護師と24時間体制で支援を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常生活の留意点等、適切な情報提供に努めている。医師と相談しながら、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び必要時に、ホームでできる事やできない事を説明し、了承を得ている。また、ホームとしての方針を全職員で共有している。	利用者の重度化や終末期の対応については、入居時に説明してホームの方針を明確にしている。利用者や家族の意向を踏まえた上で、医療機関や家族と連携を図りながら、対応、支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を通して共有し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通して、地域住民から協力を得られるような関係作りを行っている。	年2回、夜間を想定した避難訓練を行っており、いざという時に適切な避難誘導ができるよう、職員と利用者が一緒になり、実際に時間を図りながら定期的に訓練を行っている。また、災害発生時に備えて水や非常食を用意しているほか、反射式のストーブや布団等の物品も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が入居者様は大先輩であると尊重し、敬う気持ちを忘れず、傾聴や優しい対応を心がけている。守秘義務や個人の情報の取り扱いについても配慮している。	利用者の尊厳を大事にして否定をせず、最初に利用者の話を聞くようにしており、声かけは羞恥心に配慮して耳元でささやく等、利用者の個性に合わせた声かけを行う等の工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から、入居者様の要望等を聞き出したり、自己決定できるような場面作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の役割や楽しみ事を入居者様一人ひとりのペースで行えるように努めている。1日の流れのスケジュールは職員が決めているが、無理には勧めず、精神状態へも配慮して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している入居者様は自由に着こなしをしていただき、介助の必要な入居者様には天候や行事等を考慮し、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は職員と共に楽しみながら食べている。入居者様の食べたい物を聞き、献立に取り入れている。準備や片付けも入居者様個々の状態に合わせて共に行っている。	職員は利用者の嗜好を把握しており、その都度、代替品で対応する等、全利用者に食事を楽しんでもらえるように配慮している。また、利用者の状況や意思等に応じ、茶碗洗い等の後片付けを一緒に行っている。職員も一緒に食事を摂りながら、食事の時間を楽しめるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量や水分量を確認し、記載している。栄養士が献立を作っており、健康へ配慮している。季節の行事食等、様々な工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。自立している入居者様は確認と舌のケアを声がけしている。自力で行える部分以外は職員が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の訴えがある時はトイレ誘導している。入居者様の状態を観察した上で安全を考慮し、職員2名で介助することもある。紙オムツ着用の方には排泄パターンを記録している。	職員は利用者の排泄パターンを把握しており、適切なトイレ誘導をしている。失禁がある利用者には定時のトイレ誘導や失禁の都度対応する等、自尊心や羞恥心に配慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態や回数や量、水分摂取量を記録して、職員間で共有している。食物繊維を多く摂り入れた食事を提供し、健康に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	基本的には入浴日は決めているが、希望があれば入浴やシャワー浴を行える体制を取っている。	基本的に週2回行っているが、希望があれば入浴できるように対応し、入浴時間帯や入浴方法等、できる限り利用者の意向を取り入れるようにしている。また、入浴したくない利用者に対しては、対応する職員や声がけを工夫する等、できるだけ入浴をしていただくように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態に合わせて、入居者様の落ち着く場所で休息や臥床していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤カードを添付し、いつでも確認できるようにしている。薬剤内容も不明な点があれば薬剤師に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々に合った役割を提供している。また、1対1で散歩に出かけたり、ドライブへ出かけたり、気分転換になるように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物、町内散策等、入居者様の希望に沿えるように努めている。ご家族様からも協力を得て外出する機会を設けている。	普段から天気の良い日は散歩をしたり、近くのコンビニまで買い物に出かける等、なるべく利用者が気分転換できるように努めている。また、春には桜、秋には紅葉を観に出かける等、できる限り行きたい場所へ外出できるよう、利用者の思いに寄り添った支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の協力も得て、小額のお金を持っている入居者様もいる。買い物等、お金の受け渡しは見守りや声がけにて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があればスムーズに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節を感じる装飾を行っている。2ユニット違う装飾であるため、楽しみにしている入居者様もいる。	ホールの壁には季節の手作りの作品を飾っているほか、季節の外出行事の時に撮った写真を貼っており、利用者が季節を感じられるような工夫をしている。また、廊下の所々に温湿度計を設置し、適切な温湿度を保てるように管理して、冬場は濡れタオルを干したり、加湿器を使う等、利用者が快適に過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様はお互いの居室へ行き来したり、リビングにて過ごしたり、様々な形でコミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物品を居室に持ち込み、自由に使用していただくよう、入居時からご家族様へ働きかけている。	入居時にはできるだけ馴染みの物を持って来てもらうよう、声がけしており、テレビや位牌、人形等の持ち込みがあり、利用者個々に合った居室となっている。また、持ち込みの少ない利用者に対しては写真を飾る等、利用者一人ひとりが落ち着いて生活できるような居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分かりやすいよう、職員手作りの表札を入口に飾っている。		